

ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

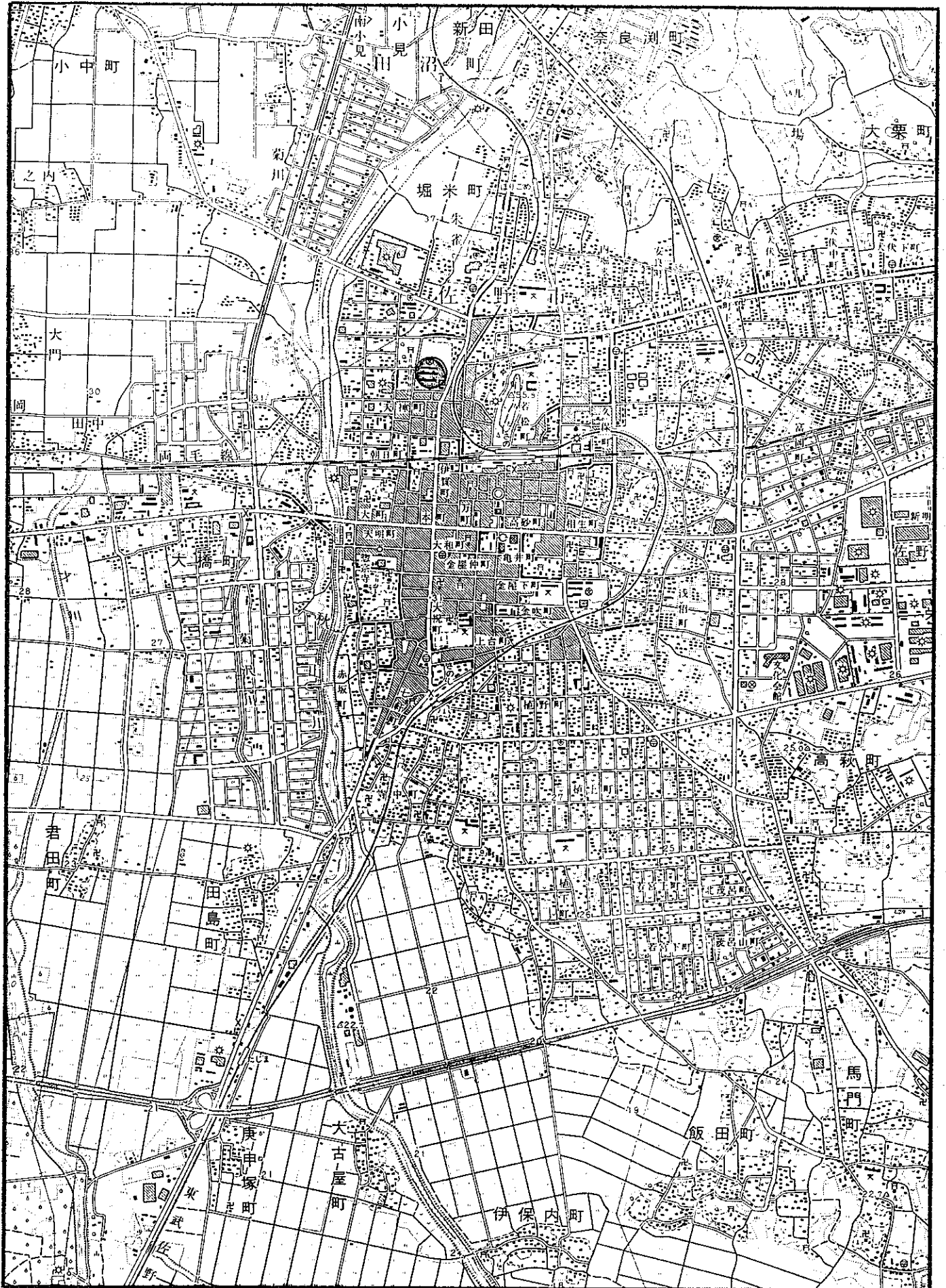
地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご利用ください。

栃木県土木部建築課

調査案内図

1 : 25,000



設計委託佐野高校特別教室棟新築工事地質調査 地質柱状図 (No. 1)

調査地 佐野市天神町 7.6.1-1

調査年月日 昭和63年 11月 22日～63年 11月 25日

標高 仮BM-0.84m

孔内水位 GL-3.20m

技術者

標尺 m	標高 m	深度 m	層厚 m	柱状 図	色調	地質 名	観 察	相 對 密 度	現 在 置 試 験 深 度 m	標準貫入試験						試料		標 尺 m					
										深 度 m	N 値 回/cm	10cm毎の 打撃回数			N 値					採 方 不 乱 攪	取 法 乱 攪	採 取 深 度 m	
												10 cm	20 cm	30 cm	0	10	20		30				40
		1.00	1.00		茶褐	盛土	ローム、コンクリート片 ガラ等の盛土。	観		1.15 1.45	3/30	1	1	1							-1		
		2.25	1.25		茶褐	ローム	含水大 若干粘性有り。	中位 — 密— 極密		2.15 2.45	19/30	1	8	10							-2		
					茶褐	砂礫	主体礫径φ10~30% 全体に含水大。 全体に粘土分含むが崩壊 著しい。 所々φ80~100%位の 玉石有り。 礫は5.00m付近より円礫 を呈し、5.00mより角礫を 呈す。 7.00mより粘土分多量混入 11.00m以下は円礫・角礫 が不均一に混入し粗砂 を呈す。 堅実である。	中位 — 密— 極密— 中位— 密— 極密		3.15 3.45	50/30	15	16	19				50			-3		
										4.15 4.44	50/29	11	20	19				50			-4		
										5.15 5.39	50/24	20	21	9/4				50			-5		
										6.15 6.44	50/29	16	16	19/9	40			50			-6		
										7.15 7.45	24/30	8	9	7/10		24					-7		
										8.15 8.45	43/30	14	16	13/40			43				-8		
										9.15 9.39	50/26	18	16	9/10							-9		
										10.15 10.45	23/30	7	8	8							-10		
										11.15 11.35	50/20	22	28								-11		
										12.15 12.38	50/23	16	26	8/3							-12		
										13.15 13.31	50/22	20	24	6/2							-13		
										14.15 14.39	50/24	21	22	7/4							-14		
		15.40	13.15							15.15 15.40	50/25	16	16	17/5							-15		

